【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	鳥栖市立田代中学校
1　前年度 評価結果の概要	・昨年度の全国学力・学習状況調査において、学力の向上を見ることができており、今後も授業改善を継続したい。また、タブレット端末においては、校内研修等の成果として、大きく活用率が上がっている。今年度はより効率的な活用のあり方を全教科全領域で探りたい。 ・本校は、５００人を超える自転車通学生がおり、自転車運転のマナーの向上が継続した課題である。昨年度は幸い大きな事故はなかったものの、自動車、自転車同士の接触事故や転倒などの自損事故が２０件程度発生した。本年度も交通安全教室を２度実施するなど交通安全意識の向上に努めたい。さらに全職員による継続した指導を行うとともに、ＰＴＡや地域と連携して一層の安全教育の推進を図っていきたい。 ・不登校や不登校傾向の生徒など学校不適応の生徒が増えてきており、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関とのより一層の連携を図ることが今年度の課題である。
2　学校教育目標	**心豊かで、たくましく生き抜く力を身につけた生徒の育成**
3　本年度の重点目標	**①主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善（魅力ある授業づくり、タブレット端末の有効活用）を通して、確かな学力の向上を図る。　②よりよい人間関係づくりに基づき、自主的な活動や自己決定する場面を設定し、豊かな学校生活づくりを推進する。　③基本的生活習慣の確立や安全教育の充実により、心身の健全な育成に努める。　④家庭や地域との連携・協働を強化し、コミュニティ・スクールの推進・充実を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。　⑤業務の効率化と時間外勤務時間の削減に努め、働き方改革を推進する。**

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○（学校独自重点取組） ・タブレット利活用力の更なる向上を図るとともに、より効果的な場面での利活用を目指した授業の改善を行う。	○（学校独自成果指標） ・タブレット端末を週に3回以上使用したと回答した生徒が80％以上	・AIドリル、ロイロノート利活用の推奨 ・タブレット端末を活用した研究授業の実施 ・小中連携の授業参観の実施		・		・	・学力向上コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒の割合が75％以上。	・思考や価値判断を伴う道徳の授業が毎週展開できるよう、学年で協力しながら教材研究にあたる。		・		・	・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○安心安全に過ごせる学び合う集団であると回答した生徒の割合が75％以上	・年10回以上のアンケートを実施 ・いじめいのちを考える日の毎月実施 ・週毎の生徒指導委員会にて、いじめ事案の経過を確認する。		・		・	・生徒指導主事 ・教育相談
	●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒85％以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80％以上	・小中9カ年を通した系統的なキャリア学習の展開やキャリアパスポートの効果的な活用を通して、中・長期の展望を持たせる。 ・進路に関する資料の適切な管理や講演会の実施、職場体験、職業講話、先輩に学ぶなどを通し、進路に関する関心を高める。		・		・	・進路指導主事 ・各学年進路担当
	○生徒会活動の活性化を通じて、支え合う人間関係づくりを推進	○「仲間に対して思いやりの心で接し、優しい言葉かけをしている」と回答した生徒が90％以上	・生徒会の自主性を高める活動推進（各種行事の実行委員会制、生徒集会のあり方の見直し、校則の見直し等）		・		・	・生徒会担当
●健康・体つくり	❶「運動習慣の改善や定着化」 ❷「望ましい生活習慣の形成」 ❸「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	❶授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒70％以上。 ❷学校評価アンケートにて田代スタイル（無言清掃・時間・あいさつ）について肯定的な回答した生徒80％以上 ❸「健康に良い食事をしている」生徒70％以上	・運動やスポーツを安心安全に行える環境づくりを絶えず行う。 ・田代スタイル（無言清掃・時間・あいさつ）の取り組みを、生徒会活動の活性化を通して推進する。 ・給食や家庭科の授業等を通して、望ましい食習慣と食の自己管理の大切さを指導する。また、家庭実践が出来ているか、授業の中でアンケートを取り、その結果を次に活かす。		・		・	・部活動担当 ・生徒会担当 ・給食担当 ・家庭科主任
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○自転車のルール遵守とマナーアップをめざすとともに、自転車事故防止啓発を強化し、事故件数を前年度比で50％以上減少させる。	・交通安全教室の実施（特に1年生） ・PTAと連携して自転車点検や通学路点検を実施する。		・		・	・安全指導担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●時間外在校等時間の上限を遵守する。（昨年度より5％縮減） ●年間20日の年次休暇のうち、職員１人当たりの年次休暇の取得日数10日以上	・定時退勤日の設定及び徹底 ・管理職による職員の勤務実態の把握 ・会議・行事等を見直し縮減を図る。 ・働き方に関する職員研修を行う。		・		・	・管理職
●特別支援教育の充実	○（学校独自重点取組・任意） ・全職員で生徒の特性を共通理解し、特別支援教育に取り組む。	○（学校独自成果指標・任意） ・教科担任が授業引継ぎファイルの情報を参考に特性に配慮した授業実践をしたと回答した職員を70％以上にする。	・職員研修を行って推進を図る。 ・授業引継ぎファイルに授業で知り得た生徒の様子や特性を記録し、情報共有する。		・		・	・特別支援コーディネーター

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○小中一貫教育の充実	○教科「日本語」の実践充実	○教科「日本語」に係る情報を通信等で発信（学年、学級で）することができたと回答する教員70％以上 ○保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80％以上	・年間授業時数の確実な実施（1年生20h、2・3年生35h） ・特別非常勤講師を招聘した体験活動の充実（茶道、着付け、俳句・川柳等）		・		・	・教科「日本語」教育コーディネーター
○コミュニティスクール（学校運営協議会）の機能推進	○協議会の機能推進 ○地域人材の活用、地域貢献・奉仕活動等の推進	○年3回の協議会開催（授業参観含む） ○地域人材の活用、地域貢献・奉仕活動等の実践［年間2回以上］	・本校の教育課題についての情報共有と課題解決のための連携・意見交換の充実を図る。 ・学校評価の活用		・		・	・管理職

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・